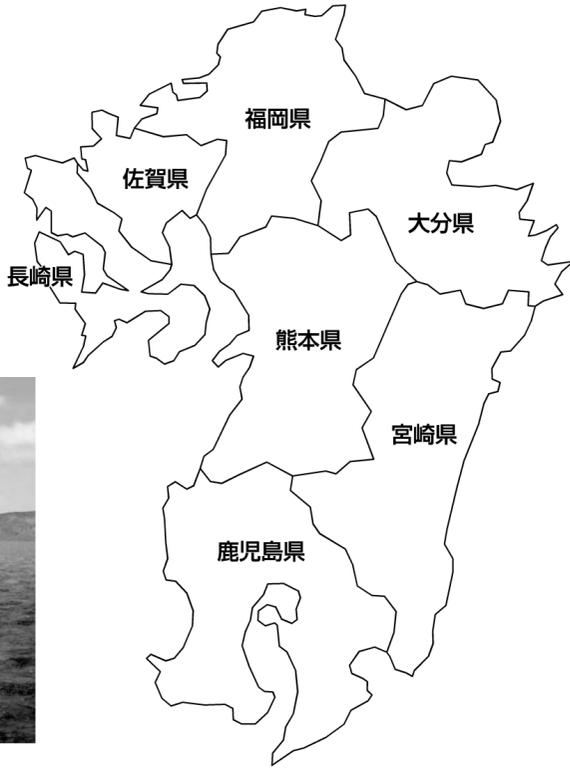
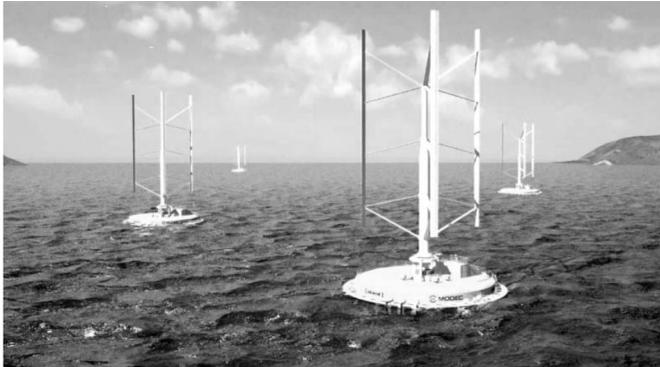


九州の新・成長戦略2013

九州経済連合会は5月、新会長に麻生泰氏を選んだ。松尾新吾副会長と並んで会見した麻生会長は、「(経済を)九州から変える」と意気込んだ。



佐賀県と三井海洋開発は秋から県内で、潮流と風力による洋上発電施設の実証を行う。両者は、「世界初のシステム」として自信を持つ。(写真はイメージ、佐賀県提供)



九州経済の成長戦略が、勢いは失っている。しかし、培った技術を生かして超小型EV(電気自動車)の部品分野に進出するなど、新領域に事業を拡大する企業も登場している。高付加価値製品の生産増大による「シリコン・アイランド」再興に期待がかかる。

原子力発電に対して早期稼働を望む声が産業界で高まっている。同時に再生可能エネルギー分野が広がりをみせ、コア事業から派生した領域で優位性を出す企業が増えている。太陽光発電パネルの設置による発電事業に加えて、風力や水力、温泉水による発電など地域性を生かしたエネルギー開発が盛んだ。また電気機器の製造技術を生かしたEPC(設計・調達・建設)事業など成長分野への参入が相次いでいる。

成長分野の取り込みは、企業振興や誘致を望む自治体にとっても重要な課題。政府が年度内の認定を目指す海洋再生エネルギーの実証フィールドの公募では、佐賀県と長崎県が火花を散らし、鹿児島も手を挙げると見られる。医療や医薬分野への参入意欲も高く、大分県と宮崎県は共同で療分野の振興を産学官で進めている。また佐賀県では6次産業化を中心にした化粧品産業の拠点創出に動いている。

このように九州では日々、産業の新陳代謝とも言える変化が起きている。そこで、「新」をキーワードにして、次代を担う九州経済の現状を見ていく。



デンケン(大分県由布市)は検査装置メーカーのノウハウを生かして太陽光発電分野に参入。6月には本社敷地内に出力1200kWの発電施設を完成させた。



九州大学は6月、次世代燃料電池産学連携研究センター(NEXT-FC)を開設。1月に完成した隣接する水素研究拠点と合わせて、研究開発推進の期待が高い。

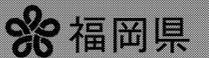


タイやベトナムなどの保健医療関係者らは5月、宮崎県延岡市内の九州保健福祉大学を視察した。大分・宮崎両県は医療分野の振興を、ハード・ソフト両面で進める。



トヨタ自動車九州は6月、累計生産500万台を達成。高級車「レクサス」を主力に、今後もカー・アイランド九州を代表する1社として走り続ける。

福岡水素戦略 ~Hy-Lifeプロジェクト~



福岡県は、「福岡水素エネルギー戦略会議」を中核に、研究開発や社会実証、水素人材育成などを総合的に推進する「福岡水素戦略~Hy-Lifeプロジェクト」を展開し、今後成長が期待される水素・燃料電池関連企業の育成・集積を目指しています。

プロジェクトの概要

研究開発

水素材料先端科学センター

次世代燃料電池産学連携研究センター(2013年6月開所)

九州大学の世界的研究機関を中核とした、水素の製造・輸送・貯蔵から利用まで一貫した各種研究開発の推進。

社会実証

水素タウンの整備

水素ハイウェイの構築

「水素タウン」の整備、「水素ハイウェイ」の構築など、水素エネルギー社会を具現化する社会実証の推進。

水素人材育成

福岡水素エネルギー人材育成センター

イノベーションの根幹となる多様な水素人材の育成(経営者、技術者、大学生・大学院生)。

水素エネルギー新産業の育成・集積

水素エネルギー製品研究試験センター

国内唯一の公的試験評価機関「水素エネルギー製品研究試験センター」における製品の開発支援などにより、県内企業の参入や県外企業の誘致を促進。

世界最先端の水素情報拠点の構築

水素先端世界フォーラム

世界に向けた情報発信により、人材・企業・研究所・投資の集積を促進。

燃料電池自動車の市場導入に向けた水素ステーションの整備が始まります

水素ステーション

燃料電池自動車に燃料の水素を充填する施設です。現在、社会実証研究中。

燃料電池自動車(FCV)

- FCVは走行時の排出ガスゼロの環境にやさしい車です。
- 電気でモーターを駆動させて走るため、加速性能がよく、しかも静かな走りの車です。
- 水素充填時間はガソリン車とほぼ同じです。
- 1回の水素充填で500km以上の長距離走行が可能です。
- FCVは2015年に市場導入される予定です。

空気 → FCV → 水素

※FCVはFuel Cell Vehicleの略文字、燃料電池自動車